

湧き水の会の定期調査として、富沢湧水と大坂ふれあいの森の水と植生のモニタリングを行っています。これは、環境省モニタリング 1000 里地調査の一般サイトに 25 年度から登録され、会員が継続できるよう準備として始めました。水質調査は、富沢湧水のパイプ 2 か所と大坂ふれあいの森の湧水量測定、ph、電気伝導率測定、大坂ふれあいの森の井戸の水の深さ測定。1 年前から行い、同時に保全も行っています。富沢湧水地の石段修理も地権者の了解を得て徐々に始めました。たくさんの湧水を「せせらぎ」となるように手入れして水を生かす工夫を加えました。サワガニやオニヤンマのヤゴも見つかりました。



斜めになった石段の修理。上がりやすくなりました。せせらぎづくりの水路づくり。オニヤンマ

樹林公園の保全活動は、2013 年 7 月 9 日・この日は連日の猛暑の最中。10 名の保全活動にたけた方々集合。保全中にもタマムシに出会ったり、アカボシゴマダラの幼虫を発見。身近な自然の力を知るきっかけでした。



ヒロハアマナ保全区 ドングリの森で森づくり タマムシ発見 アカボシゴマダラ幼虫発見

白子大坂ふれあいの森の会に協力した真夏の保全・特に畑跡地ではヤブミョウガやイラクサが大きくなり、ドクダミやシャガもあふれんばかりに生育しています。背丈を低く刈り取ったり人が通れるようにしました。



人が通れる道の草刈り 新人 2 名も加わってお手伝い オオシオカラトンボ 保全の後の交流タイム

新倉ふれあいの森では第 3 土曜日が定期保全日。この外に七夕用竹の用途で 7 月初めは暑期中大忙し。でも保全日には、季節のスイカの差し入れがありました。暑い夏の活動と交流の報告です。様々な環境の違いを把握して考えながら保全をすすめる中で、生き物と人との出会いがあります。体験が継続の力です。



コカマキリ



新倉ふれあいの森の入り口。杭を付け替え保護区の拡張。広場でひと休みと交流。スイカのサプライズ